

【対談企画】 シフトテクノロジー×第一生命保険

業界リーダーの対談 保険業界の未来像



《全部門でのAI活用を目指して》

保険業界に特化したAIソリューションを提供するシフトテクノロジーの共同創業者であるジェレミー・ジャウィッシュCEOと業界DXをけん引するリーダーとの対談を2回にわたり掲載する。第2回の対談パートナーは第一生命保険執行役員江口武彦氏。全部門でのAI活用を推進したいと語る江口氏との対談では、生保事業におけるこれからのAIの活用について、率直かつ熱い議論が展開した。

シフトテクノロジー共同創業者 ジェレミー・ジャウィッシュCEO

第一生命保険 江口 武彦執行役員

ジャウィッシュ まずは江口さまのバックグラウンドと、今最も注力している事業について教えてください。

江口 私は大学卒業後に山一証券に入社し、5年ほど働いた後、1995年にスタートアップ企業の立ち上げを経験した。そこで9年間働いたが、IPOができなかったため、その時の株主であるソフトバンクグループの投資会社に移った。その次に、コニカミノルタ、SOMPOホールディングスで事業開発に携わり、現在に至る。私のケースは、インノベーションを起す、というところにあると自負している。



この10年でインノベーションに関する雰囲気が変わってきたと思う。何より、オープンインベシヨンが日本のいたるところで見られるようになってきた。10年前と大きく違うのは、スタートアップ企業の環境もだいぶ変わり、国内のスタートアップ企業の活動が活発化してきた。また、スタートアップ企業の環境もだいぶ変わり、国内のスタートアップ企業の活動が活発化してきた。

《「ポジティブな」妄想「原動力」に》

とも感じている。ジャウィッシュ スタートアップ企業が活発に活動するようになってきたというところは、私たちがとても大変嬉しい変化だ。昨今ではAIが大きなトレンドになっているが、御社ではAIの導入についてはどのようなお考えかお聞かせいただきたい。

が、私のポジシヨンからすると、社内の人たちも、AIを活用するというのが、ぜひ「妄想」してほしいと思う。ポジティブな妄想を広げたい。妄想をどうすれば実現できるか、ということを楽しみながら考えて実行してほしい。

ジャウィッシュ AIの中でも、今特に注目されているのが生成AIで、私は、この生成AIの登場によってAI自体の位置付けが大きく変わったと考えているが、御社では生成AIをどのように活用していく方針なのか教えてください。

江口 私は2年前に現在の生命保険会社に入社した。そこで気付いたのは、生命保険というのは、人の一生にわたる保障や、重篤な病気のサポートを提供するという非常に価値ある商品を提供しているにも関わらず、社会からの評価が低くないことだ。私としては今後10年でこれを上げていきたい。もちろんこういった評価になっている理由には保険会社側にも思い当たる節があるから、これを上げていくことで、さらに社会から期待される存在へと引き上げていきたい。そのためには、重要な要素として登場してきたAIを有効活用していきたいと考えている。私としては、逆にAIがどのようなインパクトを生み出すか、生命保険業界に大きなインパクトを与えることができるかどうか。今日は江口さまから洞察に満ちたお話を伺うことができ、大変ありがたく思っている。お話を聞いて、江口さまの指揮の下、御社がいたるところでインノベーションを起せる企業になることは間違いなく確信した。